

河合町観光まちづくり提案書

令和7年度 関西観光まちづくりコンサルティング事業

2026年3月17日

関西観光まちづくりアドバイザー会議

はじめに

関西観光まちづくりアドバイザー会議では今年度、重点支援地域として奈良県河合町を選定し、現地視察や会議および、地域側検討会を通じて、河合町の観光まちづくりの方向性を検討してまいりました。

そのなかで私たちは、河合町の立地や観光資源などを鑑み「連携」をキーワードとして考察を試みてきました。私たちのいう連携をイメージいただくため「まぜる」「つなげる」「ひっつける」を掲げ、町内はもちろん町外も含めてヒト・モノ・コト・トキ（時空）を結びつけて新しい価値を創出することに観光まちづくりの方向性を見い出しました。

本提案書は観光まちづくりの考え方、捉え方をお示ししたものです。実際には河合町の皆様がさらに考察を加え実行していただくしかありません。もちろん我々もお手伝いはさせていただきますので、本提案書が河合町観光まちづくりへの動きがブレイクスルーするきっかけになることを願ってやみません。

現地視察報告

1. 地域資源の評価

視察した地域資源について、観光資源としてなりうる可能性、旅行商品化に対応できるか否かを評価し星数によって表しました（★★★★=歓喜!、★★=可能性大、★=条件付で可能性あり、ゼロ=可能性なし）。以下のポイントは、委員の星数の総和を視察した人数で割り算しました

①豆山荘 ★ 1.62ポイント（最高3、最低1）

◆強みとして森本千吉氏の人物史を含めた「建物の希少性」が感じられるものの、現状ではそれを生かせず「もったいない」スポットに。
⇒建物が有するストーリー性を生かしたミュージアム機能、町内外の来訪者のたまり場となるカフェや民泊機能、利活用について調査の必要性を提言



②文化財展示室 ★ 1.08ポイント（最高2、最低0）

◆貴重な文化財を展示していることは強みだが、現状の展示室のありようや立地、予約方法などに対して改善する必要がある。
⇒移転等の施設改善は必須で、実際に触れられるくらい身近な展示物の体験を前面に馬見丘陵公園等との連携や町内への貸出展示、埴輪づくりなどコンテンツの充実による古墳ストーリーの構築を図る。その上で教育旅行等の誘致を見据える。民具に関しては改修中の豆山荘のコンテンツ開発に役立てる。



現地視察報告

1. 地域資源の評価(2)

③ Secret Base JO-9, café・沈下橋 ★2.08ポイント (最高3、最低1)

◆ビジュアル、ロケーションの評価が高く、若者や女性に対して訴求力が高いことは強み。食事メニューに地域らしさを感じさせるなど連携を改善点と指摘する意見も。

⇒“映えスポット”としての優位性をさらに高めるためのコンテンツ化や、ご当地メニューの開発やサイクルツーリズムの誘致で地域連携力を高め拠点化する。



④ 長林寺 ★0.69ポイント (最高1、最低0)

◆聖徳太子ゆかりの寺として歴史的価値は認められるものの、案内板等インフラの未整備、予約制度など改善点は少ない。

⇒法隆寺など聖徳太子との関連性を前面に解説板やVR体験、ガイド付き・体験付き等の特定公開日を設ける。予約制度の改善は観光資源としてマスト。



現地視察報告

1. 地域資源の評価(3)

⑤廣瀬大社・市場の町並み ★2.31ポイント(最高3、最低1)

- ◆境内の雰囲気や砂かけ祭、水神、橘のストーリー等が強み。
一方で、観光消費を促す仕掛けや市場の町並みの案内板等の不足が改善点として挙げた。
- ⇒ 砂かけ祭の常時体験、龍田大社との二社参り、川や橘にまつわるストーリーの見える化などによって観光資源としての価値が高まると提案。市場の町並みについては、旅行者目線の案内マップや立ち寄り所の整備など歩きたくなる空間づくりが必要。



⑥邂逅 ★2.00ポイント(最高3、最低1)

- ◆店内のしつらえや雰囲気、大和野菜をメインした料理は強み。
反面、河合町らしさを感じるメニューや給仕のオペレーション、岡田邸であったことの説明、トイレの不足などが改善点として挙げた。
- ⇒ 域内連携を高め食材、周遊プランづくりなどをリードしていくことや、トイレなど設備の拡充、SNSによる情報発信とファンクラブの創設等の提案も。



現地視察報告

1. 地域資源の評価(4)

⑦大和の黒豆“KAWAI BLACK” ★1.31ポイント（最高2、最低0）

◆ブランディングへの取り組みにポテンシャルがあると評価する一方で、生産量の少なさや収穫後の提供先が限定的なことなどが課題。

⇒ KAWAI BLACKに触れられる店舗等を増やす、茶屋やカフェを併設し収穫体験の受け入れ整備、ファンづくりなどを提案。



⑧馬見丘陵公園(ナガレ山古墳・公園館) ★2.23ポイント（最高3、最低1）

◆強みとしては広大な敷地に「花」「古墳」のコンテンツが充実し、ポテンシャルの高さを示している。反面、公園の広大さやコンテンツを生かし切れておらず、観光消費を促す場面も乏しい。

⇒ 花植えや埴輪づくりなどの参加型体験でリピーターを創出する、墳丘に登れることなど古墳群の価値を先鋭化する、ガイド育成や回遊コースの明確化などの提案が挙がった。



現地視察報告

1. 地域資源の評価(5)

⑨料亭・西大和さえき ★2.54ポイント(最高3、最低1) = 今回最高点

◆店のしつらえ、雰囲気、眺望など圧倒的な強みを有する。
⇒ 河合町の枠を超えた「プレミアム」な高付加価値プランの
拠点としてMICEや、少人数のラグジュアリー向けツアー
の重点ポイントとして位置づけを明確化する。



現地視察報告

2. 河合町全体の評価

多くの委員が河合町の「プラス点」として「歴史資産の豊富さ」「交通アクセスの良さ」「食資源の潜在能力の高さ」であることを評価しました。

一方、観光ビジョンや戦略が確立していないこと、観光インフラや受入態勢の未整備、町内外の連携不足を指摘する委員も少なくありませんでした。

プラス点（強み）

- ☆歴史的な資産が豊富
- ☆高速道・鉄道のアクセスの良さ
- ☆食文化資源の潜在能力

マイナス点（課題）

- ★観光ビジョン・戦略が未確立
- ★観光インフラ・受入態勢の未整備
- ★町内外の連携不足

現地視察の意見交換会から（抜粋）

【町長】 観光まちづくりを目指す

- 【他出席者】 ◆歴史を生かすストーリーの必要性 ◆近隣との連携で滞在させる ◆食でつなぎ観光消費を伸ばす
◆馬見丘陵公園の開花情報を早く ◆民間事業者を巻き込む ◆関連性で連携し広域で売り出す
◆ゆかりの6人に光 ◆5つ星のまちとして売り出す ◆広域観光を推進 ◆交流、食をつなぎ観光事業化

「プラス点」をさらに伸ばし、「マイナス点」の洗い出しと改善策の検討

▽周遊・回遊テーマを確立し、飲食店などグルメ情報などもわかる観光パンフレット・チラシの統一、旅行者目線の案内マップ等でビジュアル化 ▽WEST NARA、民間事業者、町民など域内外の連携強化▽食文化、体験型観光による資源の利活用

現地視察報告

3. 河合町観光まちづくり進展の突破口

観光まちづくりの突破口

連携する

- ☆地域連携
- ☆広域連携
- ☆周辺自治体と一体化し価値ある資源を訴求

西大和さえき・廣瀬大社・古墳

- ☆法隆寺の「奥座敷」ポジションの確立
- ☆西大和さえき、廣瀬大社周辺の象徴化
- ☆古墳グルメやコト体験

観光予算・補助金

- ☆観光事業補助金
- ☆観光予算と権限の集約

突破口の方策

- ☆多様な物語を生む装置の創出。周辺エリア・地元事業者・官学との連携
- ☆昼食と夕食の提供施設とテーマルートの設定
- ☆キラーコンテンツとなるスポットの整備

- ☆神話の体験化、食のブランド化、回遊の仕組み化
- ☆近隣有名観光地と連携し、高付加価値商材の造成物語を創造し観光地化していない静けさを訴求
- ☆各飲食店が個性を競う。土器・埴輪の発掘体験

- ☆旅行会社を対象にしたバスツアー等への支援
- ☆WEST NARAなどDMO/DMCにお金と権限を集約

- ★WEST NARA、二社参り、聖徳太子の広域連携
- ★食（グルメ）、祈り、体験による域内連携
- ★連携促進の原資の確保、観光インフラ整備

第3回会議概要

話題

・連携

- ⇒ WEST NARAによる連携
- ⇒ 町内事業者間の連携
- ⇒ テーマ（祭り、信仰等）による広域連携

・ビジョン

- ⇒ 観光まちづくりによる河合町の未来像を示す
- ⇒ 優先順位、ロードマップの作成
- ⇒ 町内事業者と住民（ステークホルダー）の“自分事”化

・サイクリング

- ⇒ 田原本線サイクルトレイン、シェアサイクル
- ⇒ サイクリングマップの作成

・古墳

- ⇒ 埴輪づくり体験など希少価値を前面に
- ⇒ ふるさと納税返礼品に埴輪製作体験
- ⇒ 出土品と文化財の活用

・観光消費

- ⇒ 商品化等による消費を喚起するポイントの設定

河合町が目指す観光まちづくりの未来像（**ビジョン**）を町内事業者および町民で共有する
観光資源の価値を最大化するため町内外との**連携**を深める
古墳や文化財を観光まちづくりの資産として、**観光消費**につながる商品化を図る
WEST NARAの回遊性を高める**サイクリング**等の取り組みを河合町がリードする

地域側検討会

地域側検討会の概要

現地調査、会議等の結果を共有し、地域の意見を収集のうえ本提案書に反映させることを目的に12月23日、観光まちづくりのステークホルダーの皆様にお集まりいただき検討会を開催しました。

【発言要旨】

- ◇森本千吉氏と大和鉄道の歴史を生かした鉄道ファン向け観光
- ◇ストーリー作りと優先順位を立てて小さな成功体験の積み重ねが必要
- ◇他地域のいい所を真似ながら観光ビジョンを策定する
- ◇「砂かけもち」の販売でプレミアム感を出す
- ◇天理線など道路整備が必要
- ◇廣瀬大社の青銅製・等身大の馬像を活用
- ◇大塚山古墳から廣瀬大社への農産物直売ウォークの実施
- ◇大輪田の「連理の枝」のクスノキで婚活
- ◇大和川堤防の景観悪化（彼岸花の減少、ゴミの散乱）
- ◇健康になれるサイクルツーリズムの実践
- ◇自転車安全教育で子どもたちの郷土愛の醸成
- ◇生産者と消費者が近接する関係づくり
- ◇学生や住民が河合町の魅力を知る機会が必要
- ◇黒豆やサツマイモの収穫体験が好評
- ◇放置竹林を活用したタケノコ堀り、竹炭づくり体験
- ◇ウォーターガンバトルを「水かけ祭り」として開催
- ◇河合町を一軒の家に見立てる

氏名	所属
芳本 忠	町民有識者 長崎大学名誉教授（薬学）
榎元 政明	（一社）KIX泉州ツーリズムビューロー専務理事 事務局長
松井 義明	河合町商工会 会長、つけもと株式会社 社長
奥山 秀之	まほろば夢市 会長
増田 彦嗣	河合町郷土を学ぶ会 会長
吉田 泰司	Secret Base JO-9,Café、株式会社ヨシダ代表取締役
中島 由美子	西大和サイクルツーリズムの会 会長
森本 元	畿央大学 学生
森川 喜之	河合町長
桐原 麻以子	河合町 まちづくり推進部 観光振興課 課長
日浦 早紀	同 係長

地域側検討会で現れたキーワード
既存資源・イベントを活用した体験型コンテンツ
観光ビジョンの必要性
「つなぐ」まちなか連携

観光まちづくりの方向性を考える

河合町観光まちづくりのキーワード

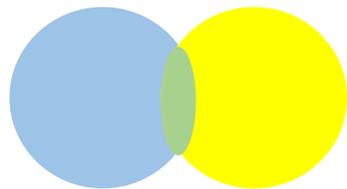
現地視察や会議、地域側検討会等を経て、委員はもちろん地域の皆さんからも河合町が観光まちづくりを進める上で「連携」の必要性を説く意見が多く聞かれました。

その要因として、河合町には「図（圧倒的なキラーコンテンツ）」が少なく広く認知されていないため、地域内外との連携によって町の風情や成り立ち等をも包含する「地」を示す必要があるからだと考えました。単色の背景ではなく、その濃淡やグラデーションを連携で表すことを観光まちづくりの方向性として表わそうと試みます。

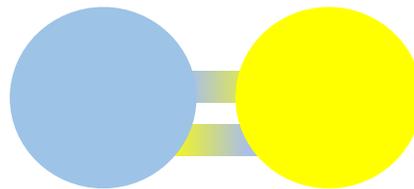
例えば、河合町のプラス点として挙げた「歴史資産の豊富さ」。古墳を過去という単色に留めず、今を生きる古墳とするための方策を考える。また、「交通アクセスの良さ」についても一次交通にとどまらず町内や西大和エリア内を移動する二次交通の方策につなげる。「食資源の潜在能力の高さ」は生産地（生産者）と消費地（消費者）が近接している地域の特色を生かす方策を考える…といったイメージです。

そのイメージをさらに具体的に示すため本提案書では「連携」をまぜる・つなぐ・ひっつける等の観点から仮説を立て、河合町観光まちづくりの方向性（ビジョン）を考察することとしました。

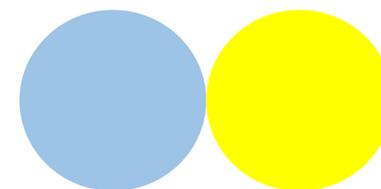
河合町 連携パターン



まぜる



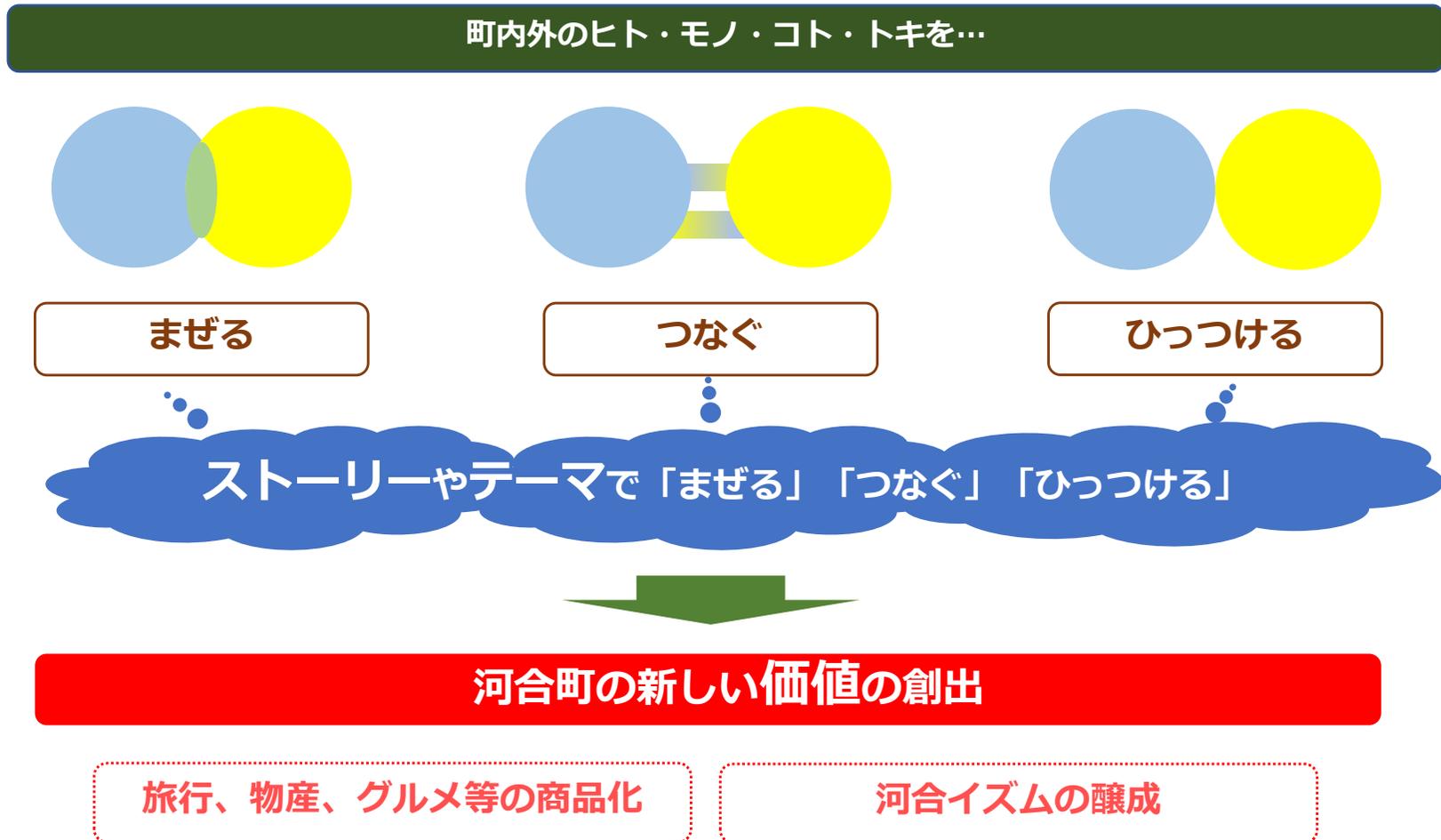
つなぐ



ひっつける

観光まちづくりの方向性を考える

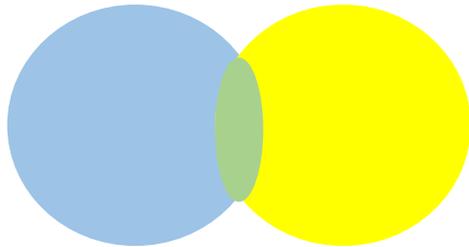
「まぜる」「つなぐ」「ひっつける」の目的



観光まちづくりの方向性を考える

「まぜる」「つなげる」「ひつつける」で価値を創出するとは…（1）

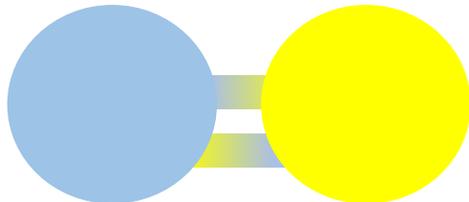
まぜる



【ヒトをまぜる】

- ・河合町に古くから暮らす町民と、比較的新しく住む町民が観光まちづくりで協働する
 - ・男女を問わず高齢者、壮年層、学生を含む若年層、子どもたちが観光まちづくりの当事者になる
 - ・生産者と消費者が近接する特性を生かし、相互メリットを生じさせる
- ⇒ 観光を媒介とした暮らしやすく、訪れてみたくなる河合町ならではの「河合イズム」を実現する観光まちづくりプラットフォーム

つなぐ



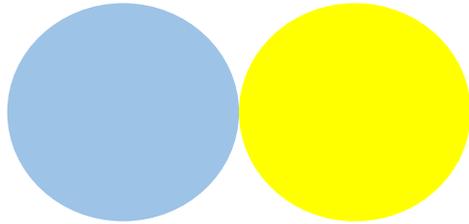
【モノ（資源）、コトをつなげる】

- ・河合町内のモノやコト同士、町内のコト・モノと町外のコト・モノをテーマ、ストーリーでつなげて回遊する必然性を生む
 - ・シェアサイクルやレンタサイクル、サイクリングコースが整備されている先進性を生かしモノ・コトを自転車をつなぐ
 - ・鉄道や高速道など交通アクセスの利点を生かす
 - ・県内に3つある世界遺産（2026年夏には4つ？）が近接する特性を生かし、町内のモノ・コトと世界遺産の親和性を見える化する
 - ・生産している場所と消費している場所がつながっている地産地消のまちをアピールする
- ⇒ 「河合イズム」「河合ブランド」を確立する観光まちづくり

観光まちづくりの方向性を考える

「まぜる」「つなげる」「ひっつける」で価値を創出するとは…（２）

ひっつける



【トキをひっつける】

- ・古墳や寺社仏閣など歴史的なモノ（資源）が豊富な河合町にあって、モノの価値を際立たせるコトを充実させ、歴史的な宝モノを現代化＝御墳印帖など
- ・作る（育てる）ヒト＜生産者＞、食べる（使う）ヒト＜飲食店や消費者＞をひっつけて、物流時間を超越した地産地消の営みを観光コンテンツとして先鋭化する
- ・過去の遺物を現代の宝モノに変換するために、ストーリーや翻訳者（インタープリター）の力で時空を超える
- ・ポタリングのスピードで古墳や寺社、グルメなどを往来し時空を行き来する
⇒ どこへ何を誰と行くかの時間を価値化する



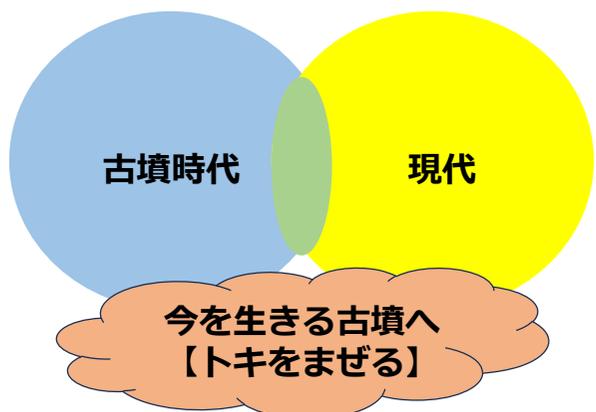
河合町で過ごす体験価値を創出

河合町の体験価値を創出するために、周辺市町の観光コンテンツも「まぜて」「つなげて」「ひっつけて」、WEST NARAをはじめ他エリアの価値を引き寄せる

観光まちづくりの方向性を考える

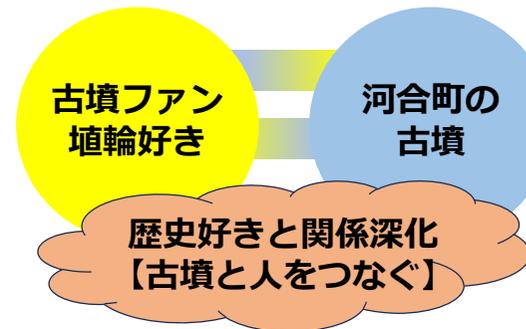
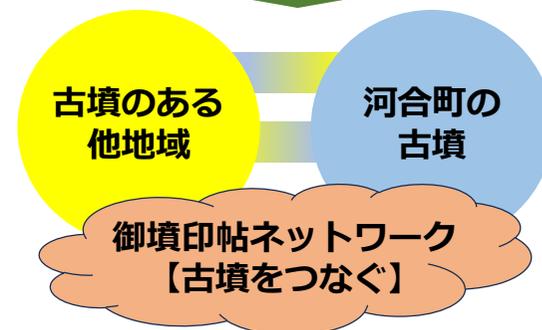
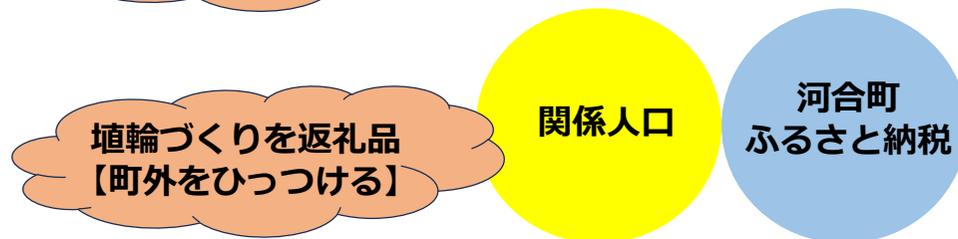
古墳を「まぜて、つなげて、ひつつける」

河合町のヒト・モノ・コト・トキを「まぜて」「つなげて」「ひつつける」【イメージ1】



古墳に登ることができる価値を最大化

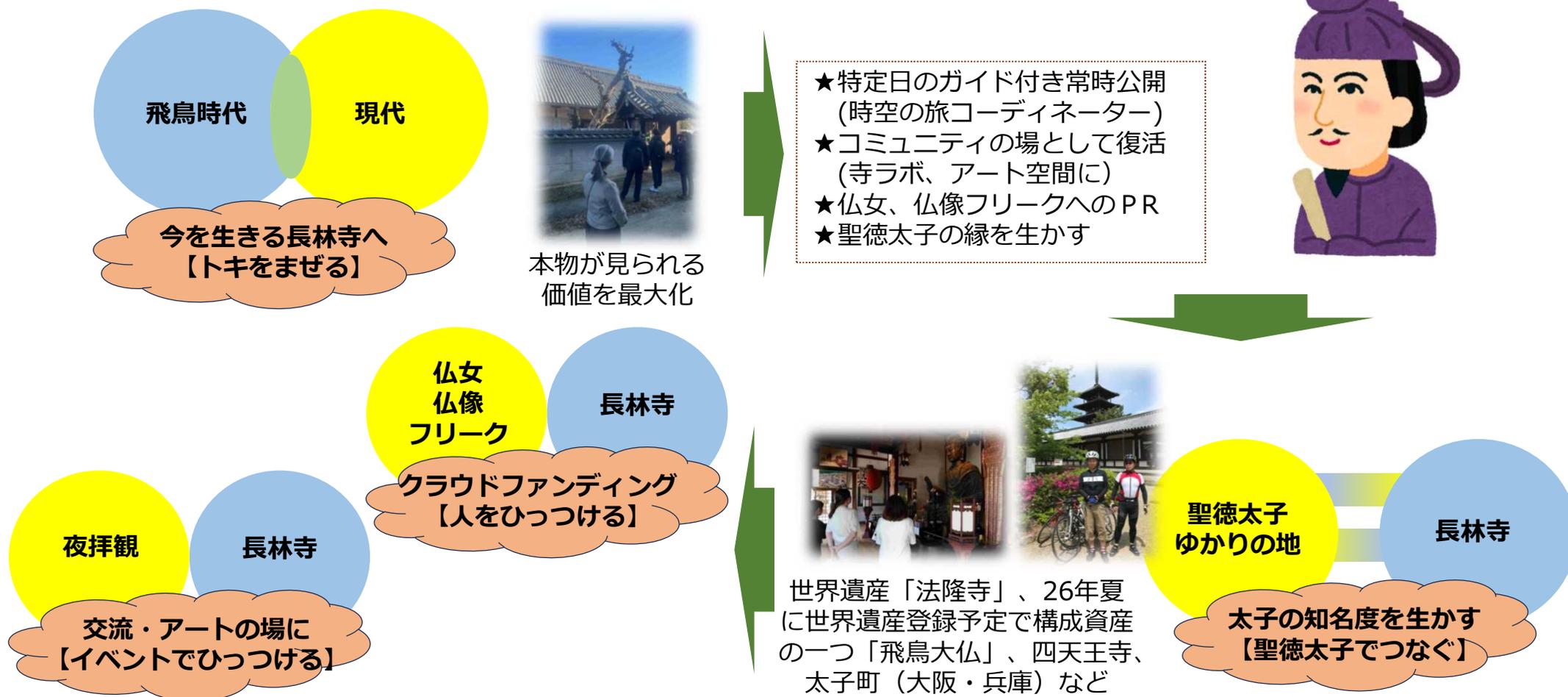
- ★古墳時代を翻訳するガイド (時空の旅コーディネーター)
- ★遺跡発掘体験
- ★御墳印帖を生かす
- ★埴輪づくりを売り出す



観光まちづくりの方向性を考える

長林寺を「まぜて、つなげて、ひっつける」

河合町のモノ・コト・ヒト・トキを「まぜて」「つなげて」「ひっつける」【イメージ2】



観光まちづくりの方向性を考える

「まぜて、つなげて、ひっつける」仮説を立てる

河合町内外のヒト・モノ・コト・トキを「まぜて」「つなげて」「ひっつける」ためには—

- ・仮説を立てる
- ・仮説を裏付けるテーマ、ストーリーを考える
- ・仮説に合致する来てほしい人間像（ターゲット）を仮定する

—といったことを町の皆さんで考えていただかなくてはなりません。以下、イメージとして参考例を示します

廣瀬大社 + 龍田大社 = 風水の二社参り&…

…他に「火」「地」「空」で五元素参りはできないか？

サイクルトレイン + シェアサイクル + …

…西大和ならではのポタリング？

荒れる竹林 + 筍好き = 竹刈り十字軍

…地域の課題をまぜっかえして観光コンテンツ化？

シェアサイクル + 収穫体験 + 食 = 農輪ライド

…健康、地域文化へのリスペクトを体現するサイクリング？

○○ + △△ = □□□□

…「あるもの」をまぜて、つなげて、ひっつける！

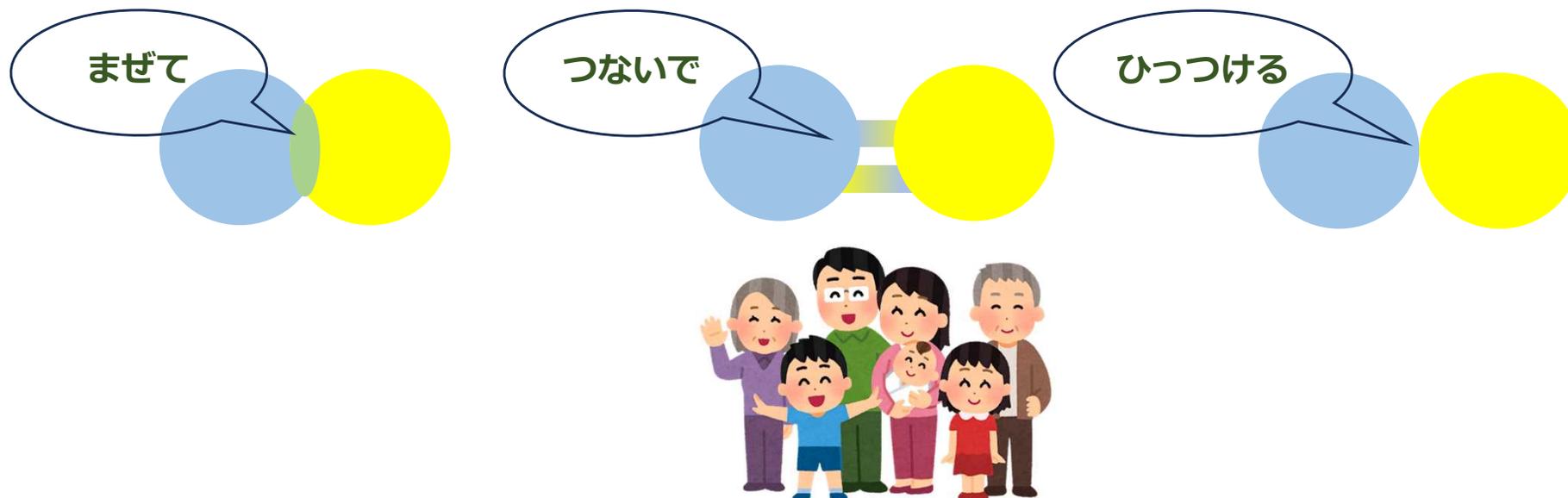
観光まちづくりの方向性を考える

「まぜて、つなげて、ひっつける」人が大切

河合町の観光まちづくりの突破口となる【連携】を推進するためには**ヒト・モノ・コト・トキをまぜて、つなげて、くっつける**担い手の存在が欠かせません。逆に、せっかく連携したものが分離し、バラバラになり、離れてしまわないようにするには人の力にかかっているとも言えます。

観光まちづくりによって河合町の価値を高め、河合町を訪れた人に唯一無二の体験価値を提供する地元の人の存在が「河合イズム」を体現し、河合町ファンを増やす原動力です。

現地視察時の意見交換会や地域側検討会に参加した皆さんをはじめ学生、町内外の人たちが参集し「まぜて」「つなげて」「ひっつけて」河合町の未来をデザインする場を設けていただくことを期待します！



皆が笑顔になる河合町観光まちづくりの実現

観光まちづくりの方向性を考える

【参考事例：大阪府岸和田市の取り組み】

観光まちづくりの具体的な事例として、第4回会議に参加した大阪府岸和田市の取り組みを紹介します。岸和田市は、2024年度の本事業で重点支援地域に選定され、本会議の提案を受けた後、市内の観光コンテンツをタリフ化する取り組みを進めています。河合町の観光まちづくりの参考になる点があると思い、概要を記載しました。

岸和田まちパビリオンの開催
・約60人（8割は市内事業者）が参加し、専門家や有識者を招いた座学、市内の観光資源をめぐりフィールドワークを実施

★アウトプット
・**市民主体のPR動画作成**
欧米豪を中心に日本文化や地域交流に関心が高い個人旅行者に発信
・**鉄工所から始まるSDGs**
麦芽粕を土壌改良剤とし新商品開発など地域内循環を創出
・**お城まつり**
桜×お城×美食で記憶に残る体験価値の創出

タリフの作成

”伝統文化がいきづくまち
「岸和田」の人に学び、暮らすように体感する
・観光まちづくりのコンセプトを明確化
・「伝統の技・文化」「食文化」「古民家」の3つのプログラムに観光資源を体系化

タリフとは
・事業者が旅行社に販売するために必要な情報をまとめたB to Bの資料
⇒観光資源の概要、価格、取引条件等をまとめる（フォーマットを作成）
⇒リアル旅行会社、OTA（オンライン・トラベル・エージェンシー）への営業ツールになる
・地元の観光資源の価値を見える化でき、地域観光の価値創出につながる

100年先も岸和田らしくあるために

おわりに

一つひとつはキラリと光る個性的な観光資源を有している河合町。私たちは、その資源の輝きをさらに放つために単体を磨き上げることよりも、複数の資源、事象を「まぜて」「つなげて」「ひっつける」ことによる相乗効果で光源はさらに増幅するのではないかと考えました。

「まぜて」「つなげて」「ひっつける」ためには、そのストーリーやテーマ、文脈を考え具現化しなければなりません。また「水と油」のように永遠に混ざらないものを見極めも必要です。そう考えると「まぜて」「つなげて」「ひっつける」のは人の手によってでしかできませんし、町の皆さんが当事者であり担い手になっていただきたいとも思っています。それに加えて、周辺市町やWEST NARA、古墳フリーク、サイクリストなど町外のいろんな人も加わることによって連携の輪が広がっていくとも考えています。

ヒト・モノ・コト・トキ…すべてを包含する大きな輪が皆さんの愛してやまない河合町からどんどん広がっていくことを思いながら本提案書をまとめました。

本提案書はあくまで観光まちづくりの指針を示すものであり、観光まちづくりの具現化についても町全体を巻き込んで考えていかれることを期待しています。その上で、本提案書で言及できていない「まぜた」「つなげた」「ひっつけた」ことを町内外に伝えていくことについては、その一端を旅行商品や情報発信といった形で私たちがお手伝いすることをお約束し、今後も河合町の観光まちづくりの進展を協力、応援していく所存です。

関西観光まちづくりアドバイザリー会議 一同